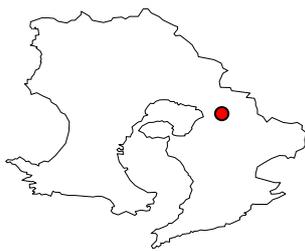


モデル事業名	町民運営による新たな活力生活圏形成事業
活動団体名	福山町地域活性化協議会
ホームページ	
所属／ 担当者名	会長 高橋 堯志
連絡先	0995-56-2881
活動地域	鹿児島県霧島市福山町

● 活動地域の概要

1. 平成17年11月7日、1市6町が合併し霧島市となった福山町は、町の63.1%を山林が占めている。
2. 福山町の平成21年3月1日時点の人口は6505人、世帯数は2993世帯で、合併した1市6町中いずれも5番目に少なく、人口減少は2番目に進んでいる（平成17年国勢調査、前回比較で7.3%の人口減）
3. 町内の中心部である牧之原自治会を除く集落は、人口が675人未満、世帯数300世帯未満と極端に少なく、主として山間部において人口・世帯数が少なくなっている。
4. 高齢化率は30.03%（市統計書）で、合併した1市6町中4番目の高さであるが、11自治会中2集落が50%を超え、40%代の集落も4集落存在し、山間部での高齢化が際立っており、人口減少と高齢化の進展により、平成37年には町平均で約70.0%の高齢化率が見込まれている。
5. 町内には鉄道駅はなく、公共交通は国道及び主要な県道を通るバスのみである。
6. 町の主な産業は農業であり、販売農家数（366）は自給的農家数を上回っている。
7. 畜産農家も多く、その主体は肉用牛（農家数220）に上っている



【鹿児島県 霧島市 福山町】



【居住者の不在化が進む集落】



【手入れがされず放置された山林】

● 活動地域の課題

平成20年度の採択とともに設立した協議会の中心となるまちづくり団体（ふっぎやまぼっけもん会）では、郷土を代表する桜島と鹿児島湾（錦江湾）を望む約3haの山腹に花文字（“ふくやま”）を実現し、地元の高中生や特殊学校の生徒との共同作業により花文字の維持・管理を行いながら、郷土への愛着育成、担い手づくり、環境保全の取り組みを20年間続けてきた。

また、平成20年度の採択事業においても、間伐材や伐採材の収集、利活用材（肥料等）の製作を行ったが、協議会外の参加者は少なく、将来の山林や農地の保全のために、地域コミュニティの活性化と地域内での連携した取り組みとして確立していくためには、担い手づくりが必要不可欠であると判明した。

● 活動の内容

（全体）

- ・平成21年4月20日宮崎県川南町にて口蹄疫発生、更に6月2日えびの市に発生したために霧島市の一部も家畜の移動制限が行われたため夏祭りや集会等の人の交流も制限されたために活動が中断された。
8月27日宮崎県知事の終息宣言があり事業の再開をした。
- ・平成21年度は、荒廃が進む山林の伐採材・間伐材を収集して利活用事業で、木炭化、堆肥化の2事業に絞り作業を行った。
- ・地域コミュニティにより地域の課題解消を図る自立的な取り組みの定着を図るため、町内の各種団体や町民、小学校等学校関係者による勉強会の開催及び利活用活動の更なる検討、町民等とのタイアップ社会実験（協働活動実験）、木炭や肥料の販売実験を行う。

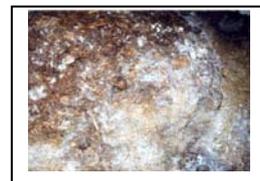
(最近1年間の進捗など)

- 伐採材・間伐材を収集しての利活用事業での木炭化は、11月より活動を再開した。今回は、廃材（2、3年前に倒木した樹木や水分含有量の低下した樹木を収集）の木炭化の検証を行った。
釜出しが済んでいないために確認が出来てないが、今後、廃材、竹、杉など色々な材料で炭を作り、荒廃した山林の再生の一助になりたい。
- 堆肥化では、口蹄疫の関係で家畜の糞が入手できずに苦慮したが、本年度は、昨年同様に製作し販売を開始したい。

● 活動の成果

・全体

伐採材の粉碎材と土着菌の肥料化についても伐採材に牛糞・豚糞・鶏糞に地元特産の酢粕を混合した、特殊肥料が野菜や花壇の花等の育成に良いとの確証が得られた。伐採材の収集や粉碎化作業には多くの地域住民が参加し、取り組みへの理解が深まるとともに、間伐作業を実施した山林所有者からも感謝されるなど、町民内での機運が高まった。そして利活用事業を具体的に実施するに当たり、市や畜産、農業等の専門家だけでなく、町内の企業や事業所と積極的に相談した結果、様々な業種とのコミュニケーション、利活用材製作のための原料提供等連携が促進され、協議会活動を中心に市、町民、町内事業者全体の連携の可能性が想定よりも高まった。



【土着菌による発酵】

・直近1年間の成果など

木炭化事業では、地域住民の関心が高まり木炭の利用価値の再確認により個人による、炭作りが見られるようになった。今後の、山林の倒木や伐採材などの木炭化は、資源の再利用普及という点での望みが大きく前進した。また、堆肥化事業では、ふくみのる1号による野菜や花壇の育成に良いとの評価で住民の購入意欲が出てきた。



【廃材の木炭化作業】

● 今後の課題及び展望

・課題

今年度においては、継続した事業を行うにあたり人材確保が困難であった。伐採材・間伐材の収集には多くの人材が必要であるが、高齢化による人材の減少及び資金面での不安が今後の課題である。

・展望

今年度において、伐採材等の肥料化と木炭化の販売実験を行い多くの住民の関心の高さと活動に対する評価をいただいた。今後も荒廃した山林の正常化を行いながら、特殊肥料を使った生鮮野菜の販売および木炭の販売実験で町内の各種団体や町民、小学校等学校関係者との勉強会の開催や利活用活動の更なる検討、町民等とのタイアップ社会実験（協働活動実験）を継続して実施している。



【特殊堆肥ですくすく育つ西洋ほぼずき】

最終的には、大自然と人間とのバランスの取れた社会作りを目指している。

● その他（自由記述）

突発的な口蹄疫という、家畜伝染病による活動自粛が余儀なくされ事業が中途に終わり残念であった。